



心強い味方「学校支援チーム」！

今回の地震を受け、宇土市の学校には京都府及び滋賀県から「学校支援チーム」の皆さんに入っていただいています。本校にも8月24日（月）から、京都チームにお手伝いをいただいています。24日から4週にわたり、9月18日（金）まで、毎週別の方が京都、そして東京からも来られます。子供たちの見守りや登下校の支援、片付け等についてご支援いただいています。この機会に、子供たちにも先生方とどんどん交流してほしいと考えています。また、ある地域で大変なことが起こったとき、自治体の枠を越えて日本全国からお手伝いに来られるということも知って学んでほしいと思っています。今度は、私たちが誰かの力になる番が来るかもしれません。短い間ですが、18日までどうぞよろしくお願いいたします！（写真：8月26日（水）、第一陣としておいでいただいた京都チームの矢野先生から、心のケアについて研修を受けました）



前途洋々



わくわく

第10回校内研修から

学校再開へ向け、また、充実した授業の実施のために、国語と算数について、8月26日（水）に研修を行いました。算数では、3年「あまりのあるわり算」の授業づくりについて協議しました。ここで、下記の①、②の問いをご覧ください。

① 「ケーキが20個ある。一人に3個配るとしたら、何人に配ることができて、いくつ余るか」

② 「ケーキが20個ある。一箱に3個入れるとしたら、箱はいくつ必要か」

式、商、あまりは同じでも、問いが違うので、答えも違います。このことを子供たちにどう理解させ、授業として組み立てるか話し合ったのですが、職員それぞれが意見を出し合い、とても盛り上がりました。また、国語では、6年「模型のまち」という単元において、表現に着目して読み、考えたことを伝え合う流れを考えていきました。このお話は教科書の20ページにも渡り、なかなか深い内容です。作者が作品に施した表現上の工夫に気付き、その効果をとらえながら読み進める必要があります。今年の研究のテーマのキーワードは「ズレ」。それぞれの教科で、既習事項との「ズレ」や、感じ方の「ズレ」などを生かしながら、子供たちの学びの深まりをねらって授業実践を行っていきます。（写真左：模擬授業を行いながら流れを説明していきます 右：小グループで意見を出し合っています）



地区児童会で、危険箇所・登下校時の注意事項等について確認

8月31日（月）は2学期初日。地区ごとに分かれ、危険箇所や登下校時の安全上の注意事項を確認しました。もちろん、学校でも指導を続けますが、近所に危険箇所（立ち入り禁止のポールがある、未処理のブロックや瓦があるなど）がある場合、近づくことがないようご家庭でも引き続きご指導をお願いします。



初日も元気で安心！